

いずみさの昔と今 第358回

「政基公旅引付」に見る日根荘

戦国時代に日根荘の領主であった九条政基は、文亀元（1501）年から永正元（1504）年に日根荘で過ごしました。そのときの日記「政基公旅引付」は、当時の村落の様子が分かる数少ない文献といえます。今回はその中から日根荘にまつわる事柄を紹介します。

まず、文亀元（1501）年に政基が日根荘にやってくる際の記事を見てみましょう。同年3月吉曜条（きちようじょう）では、前年に発生した「国の乱」後に、日根荘が和泉守護に「押妨（おうぼう）」されていることを、日根荘入りの動機としています。一方で、明応5（1496）年に政基らが唐橋在数（からはしあかず）を殺害した事件後、京都での政基の立場が悪化したことも日根荘にきた理由のひとつと考えられます。3月28日条では京都を出発して住吉大社に到着、29日条では堺に寄ったのち日根荘内日根野村へ、4月1日条では入山田村長福寺にやってきたことが記されています。この際、京都から石清水八幡宮辺りまでは東高野街道、そこから渡辺津（現八軒屋浜付近）までは

淀川の河川交通を、渡辺津から日根荘までは熊野街道を用いたと考えられます。

次に雨乞いに関する記事を見てみましょう。文亀元（1501）年の7月20日条には、雨乞いの方法が記されています。最初は火走神社で行い、その後は犬鳴山七宝滝寺内の七宝滝、同寺内の不動明王堂で行い、それでも降らなければ鹿の骨や頭のようなものを七宝滝の滝壺に投げ入れるとされています。こうすることで、穢（けがれ）を洗い流すために神仏が雨を降らせるといふ理屈になるようです。その後は、7月22日に雨が降り、8月13日には風流（仮装して集団で踊る芸能）という形で感謝の意を示しています。一方で文亀3（1503）年の条では梅雨に入ったもののすぐに雨が降らなくなり、雨乞いをするも効果がなく、不作と飢饉に繋がったことが記されています。

最後に祭祀に関する記事を見てみましょう。「政基公旅引付」には日根荘独自の祭祀が5つ見え、当時の農作業と関連付けられます。1月16日に円満寺で行われた法会（ほうえん・曲舞（くせまい））は、小正月を迎えるにあたって豊作を願う行事です。4月2日に大井関神社（現日根神社）で行われた祭祀は、田植えや麦刈に向けた農作業の転換を告げる祭祀と言えます。7月15日に行われる盂蘭盆会（うらぼんえ）は夏の収穫を終え、米の収穫の準備を始める転換期の行事です。8月後半は祭祀が多く、15日に和泉五社祭祀が、24・25日には火走神社の祭祀が行われました。和泉五社の祭祀は放生会（ほうじょうえ）「捕らえた生き物を解放し殺生を戒める行事」の系譜を引くものといえますが、時期的にこれらは収穫前に豊穰を祈るものと見ることもできます。



▲風流（常設展示より）

レイクアルスタープラザ・
カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

⑬駅シリーズ 南海 井原里駅



▲開設されたころ、昭和27年ごろの井原里駅。駅の命名には池田谷久吉が関わっていたようです。

▼昭和34年ごろの和歌山側から撮った空撮写真（矢印が井原里駅）。手前には佐野川が流れており、駅の手前には工場らしき三角屋根の建物が見えます。



▲現在の井原里駅前の様子。現在は山側ホームにも改札ができています。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中！